

令和4(2022)年度 東京大学大学院工学系研究科入学試験

【社会基盤学専攻】大学院入試のオンライン化に関する留意事項

1. 大学院入試のオンライン化における注意点

新型コロナウイルス感染症の流行を受け、2022年度の入学試験はオンラインで実施される。出願と受験にあたり、下記に注意すること。

- 社会基盤学専攻の大学院入試を受験するには、工学系研究科への必要書類の提出（アップロードと郵送の両方）、さらに社会基盤学専攻への追加データのオンライン調査書の提出が必要となる。社会基盤学専攻「2022年度大学院入試案内書」を注意深く読むこと。
- 入試関連の連絡の多くは、本専攻ウェブページおよび出願者へのメールで通知される。出願および試験までの期間、連絡を見逃すことの無いよう定期的に確認すること。
- 出願から試験までの期間、確実に連絡の取れるメールアドレスと携帯電話番号を届出ること。
- 試験問題や実施方法について連絡があった際、受領の確認が求められている場合は必ず返信すること。返信がない場合は受験を棄権したと扱う場合がある。

2. オンライン環境での試験について

社会基盤学専攻では英語試験を除く筆記試験（オープンブック形式）と口述試験を、8月30~31日にオンラインで実施する。オンライン試験の留意事項は以下の通り。

- 1) Zoomがインストールされたパソコン（WindowsまたはMacintosh。タブレットは不可）を準備すること。
- 2) パソコンにWebカメラ・マイク・スピーカーが内蔵されていない場合は、外付けのものを準備すること。
- 3) 筆記試験の解答は、手書きで作成する。試験終了後、スマートフォンのカメラで答案を撮影し、PDF化して提出する。答案の撮影・提出手段として、タブレット端末を使用しても良い。
- 4) 静かな明るい部屋に受験者一人のみがいる環境で受験すること。
- 5) スムーズなビデオ通話ができるインターネット環境を用意すること。
- 6) 2021年8月26日（木）13時より、オンライン接続テストを行う。試験当日の流れを説明するため、必ず参加すること。
- 7) その他、オンライン試験会場のURL、筆記試験の解答用紙の受け渡し方法など、具体的な試験実施方法については8月中旬までにメール等で通知する。
- 8) 試験中に不正を疑われるような行為を行わないよう心がけること。本専攻では、オンライン試験は録画する場合がある。不正が発覚した場合、合格発表後でも合格は取り消しとなる。
- 9) 筆記試験では、以下を不正行為と認定する。
 - (a) 本人以外の者が解答を作成する。
 - (b) 試験中、第三者と接触・会話・情報交換等を行うこと。
 - (c) 第三者の文章等を剽窃すること。ただし、出典および引用部分を解答中で明確に示す場合は正当な引用であり不正とはならない。
 - (d) その他、上記に準ずる行為および公正な試験実施を妨害する行為など。
- 10) 口述試験では、以下を不正行為と認定する。
 - (a) 本人以外の者が試験を受ける。
 - (b) 試験中、第三者と接触・会話・情報交換等を行うこと。
 - (c) 試験期間中、第三者に自分の受けた試験の情報を伝える。
 - (d) 試験中にインターネット検索等でオンラインの情報収集を行う。
 - (e) 口述試験の内容を録画・録音する。
 - (f) その他、上記に準ずる行為および公正な試験実施を妨害する行為など。